

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	中村 亮介	学校名	高松市立香西小学校
実施学年	小学5年生	教科	社会科
单元名	情報を生かす産業		

《学びを深めたいポイント》

本単元の小学校学習指導要領(平成29年告示)解説編【社会科編】での位置づけは、以下の通りである。

(4) 我が国の産業と情報との関りについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(1) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(1) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

本学級は、男子15名、女子15名、計30名で構成されている。児童は、これまでの社会科の授業の中では、必要な情報を調べるために、GIGA 端末を多く利用している。自分の調べたい内容や要素を検索し、情報を書き抜いたり、関連する図表を提示したりすることに慣れてきている児童が多い。その一方で、自力で調べる際に、何を調べていいかわからず、手が止まってしまうたり、たくさんある情報の中から、必要な情報を取捨選択したりすることが難しい児童が多く見られる。

さらに、日本の発展する産業を学習していく中で、これまでの学年と違い、児童から馴染みのない土地や産業を扱うことが多くなっている。そのため、自分自身との関連性を見出しづらく、学習意欲につながらなくなっている児童がいる。より精選した情報の中から、児童たちが具体的な内容を調べたり、児童たちにとって身近な産業の例を示したりする必要があると考える。

また、事前のアンケート結果から、約40%の児童が週に1回以上コンビニエンスストアを利用していることから、コンビニエンスストアで提供されるサービスについて、児童たちは具体的にイメージしやすいと考える。それに加え、保護者へのインタビュー結果として、コンビニエンスストアのサービスについて、「いつでも」「24時間」「身近」「利用しやすい」など、コンビニエンスストアの大きな特徴を表すキーワードが出ていることから、実生活とつなげた学習活動につなげやすいと考える。

《SKYMENU 活用のポイント》

本実践では、以下の3点を活用のポイントとした。

○児童の考えを視覚的に表現すること

黒板を使い、児童の発言で進めていく授業では、発表者本人は自分の考え方や思考を理解していても、ほか

の児童に伝えるという面では、イメージが難しい児童にとっては理解できずに終わってしまうという課題があった。そのため、児童の考えを「発表ノート」上で視覚化できるようにすることで、より児童同士の考えを理解しやすく、ほかの児童の考えから自分の考えを深めやすくなると考えた。

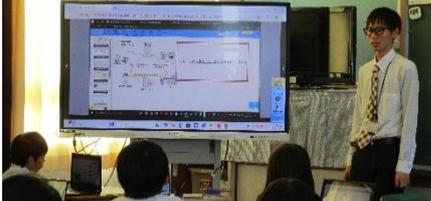
○児童の考えを共有化すること

これまでの学習活動の中では、児童たちが個人で調べる活動は多く取り入れていたが、その考えを共有する際に、発言が一部の児童に限られてしまうことが多くなっていた。また、発言することを苦手としている児童は、情報を伝えることなく授業が終わってしまうこともあった。そこで、本単元では、「発表ノート」内のグループワーク機能を使うことで、個人の意見を共有し、発言だけでなく端末上でも共有できるようにする。こうすることで、今まで表面化しづらかった児童の考えを取り上げることにつながると考えた。

○表現物の作成を簡単にすること

紙媒体での関係図作成には時間がかかったり、図や絵・イラストなどを活用したりすることが難しい。そこで、「発表ノート」上で関係図などを作成することで、図や絵・イラストの活用を容易にし、より具体的で相手に自分の考えを伝えやすいものを作成できると考えた。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1 前時までの活動をふり返り、コンビニエンスストアにどのようなサービスがあったかを確認する。		
		学習問題: コンビニはどうやって私たちの生活を支えているのだろう。	
		本時のめあて: コンビニのサービスは、どのような仕組みで利用されているだろう。	
展 開	2 コンビニエンスストアが、消費者に提供するサービスの仕組みについてまとめる。 (1) 個人で (2) グループで交流  	・発表ノートを活用して、コンビニで利用できるサービスの仕組みを関係図に表す。  ・グループワーク機能を活用しながら、自分たちが調べたサービスについての関係図を作成する。 	・関係図のひな形を事前に教員が準備しておくことで、関係図の作成が難しい児童も自分の考えを表現できるようにする。 ・グループワーク中に、図やイラストをうまく活用できているグループの関係図を電子黒板で提示し、より分かりやすい関係図になるようポイントを共有する。 ・より良い関係図の作成、わからない部分を確認できるよう、ライブ公開提出箱を利用し、他者参照をできる環境をつくった。

<p>3 コンビニエンスストアが消費者に提供するサービスについて、グループ毎に発表する。(全体交流)</p> <p>4 コンビニエンスストアと企業とのつながりを整理する。</p>		<p>・全体共有する際に、他グループの関係図を確認しやすいよう、電子黒板に掲示すると共に、画面提示を使って個人の端末でも確認できるようにした。</p> <p>コンビニ代理収納サービスの仕組み</p>
<p>ま 5 本時をふり返り、コンビニエンスストアと自分たちの生活の生活とのつながりについてまとめる。</p>		

《実践を振り返って》

成果

- グループワークで画面提示機能を活用したことで、他者参照や児童の発表が簡単にできるようになった。
- 紙媒体ではなくタブレット上で関係図を作成することで、イラストや写真を効果的に使い、分かりやすい関係図を作ることができたグループもあった。

ATMの仕組み



課題

- ▲ 関係図のひな型を発表ノートで用意したが、児童に与えた情報量が少なく、関係機関や企業などとのつながり方を示しておくことで、より分かりやすく、伝わりやすい関係図を作ることができると感じた。端末上で、どこまで支援し、どこまで児童の力でやらせるのかの判断が難しいと感じた。
- ▲ 単元の始めは家庭へのアンケートを利用し、具体的で実生活につながる意識をもっていたが、抽象的なサービスの仕組みから、さらに具体的な実生活への戻りがなかった。

